# 障害者の高齢化

## きょうだいが介護に直面

### 親も年老い… 福祉サービスで準備を

高齢の障害者が増え、きょうだいが介護問題に直面している。世話をしてきた親はさらに年老いており、それぞれを助けていかなければならなくなるからだ。習慣の違いや障害に戸惑い、不安になる人も多い。専門家は、事前に親と話し合ったり、福祉サービスを積極的に使ったりするなどの準備が必要だと指摘している。

2歳年上のダウン症の兄がいる東京都の持田恭子さん(49)は会社員だった2007年、突然兄と母親(81)の世話をすることになった。母親が転び、介護が必要になったためだ。

実家から5分の場所に転居。朝5時半に家を出て、母親の着替え、作業所に通う兄のひげそりや歯磨きを手伝い、出勤。帰宅後も世話に追われた。身だしなみにも気を使えなくなり、左右別の靴で出勤したこともある。突然泣きだす兄を見るたび途方にくれた。「ぼくではだめだ。（母のために）何もできない」とつぶやいているのを聞いた時は胸が詰まった。

2年間続けたが、心身ともにぼろぼろに。周囲の説得で母を有料老人ホームに、兄を福祉施設に入所させた。「制度はあっても気持ちのハードルが高かった」と振り返る。今は障害者のきょうだいを持つ人向けの団体「ケアラー・アクション・ネットワーク」をつくり、問題解決に取り組む。

障害者は外出時の付き添いやグループホームへの入居など、障害の程度に応じて障害福祉サービスを利用できる。しかし希望する施設に入れない場合もあり、親の世話を受け続ける人が少なくない。

障害のある兄と話す持田恭子さん　＝東京都内

悩みを語り合う「全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会」の会員ら　＝東京都港区

親も「自分の責任」といった思いから福祉サービスを使いたがらない場合がある。このため、親が倒れるとたちまち生活に行き詰まる。

一方で、医療の進歩などを背景に障害者の高齢化は進む。内閣府によると、自宅で暮らす65歳以上の身体障害者は11年時点で265万人と、1991年から20年間で約2倍に増えた。最後まで親が面倒を見るのは難しく、高齢期の生活をきょうだいが託されることになりがちだ。

全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会（東京）にも「親が世話できなくなった時が心配」「親が話し合いを嫌がる」といった相談が寄せられている。「暴力をふるう兄と2人で残されたらどうしたらいいかわからない」といった声もある。

きょうだいはどんな役割を果たせばいいのか。この問いに対する明星大の吉川かおり教授（障害学）の答えは「本来は、健常者のきょうだい同士と同じぐらいの助け合いでいいはず」と明快だ。若いうちから福祉サービスを適切に利用した方がよいと主張する。

「障害のある子どもの世話が生きがいになり、抱え込む親もいるが、大人としての人生を歩めるようにサポートするべきだ」

## えぷろん

### 雨の日の楽しみ

三浦（みうら）　邦子（くにこ）

雨の日が続いています。晴れの日はもちろんですが、雨の日も楽しいことはたくさんあります。

私が小さいころは両親が共働きだったため、1日の大半を祖父母と過ごしていました。今でもよく覚えているのは祖母が縁側で縫い物をしている傍らで、針の糸通しを手伝ったり、時には着せ替え人形の洋服の作り方を教わって一緒に作ったりして、とても楽しかったことです。

そのせいか長じてパッチワークをしてみたいと思うようになりました。しかし、若いころは仕事や子育てに追われ、趣味に時間を割く余裕はありません。しゅうととしゅうとめを送り、子育てが一段落して主人と2人の生活になってようやくパッチワークができるようになりました。

人たちとおしゃべりをしながら自分や娘、友人のために、いろんな物を作っています。

今は「歩こう会」に持って行くペットボトルカバーを製作中です。雨の日は心置きなくパッチワークをしたり、本を読んだり、晴耕雨読の楽しみを実践しています。

週に1回、公民館で地域の

（長崎市北浦町・パート・60歳）

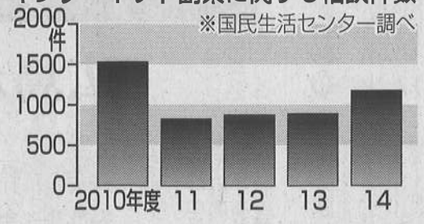
## 生活

### 献立の

**▼アスパラと長芋の黒酢炒め**　2人分で長芋250グラム、アスパラガス½束、赤パプリカ½個、ベーコン（塊）100グラム、黒酢を用意します。

長芋は皮をむいて縦半分に切り、厚さ1～2ミリの乱切りにし、酢水にさらしてざるに上げます。ベーコンは半分に切って7～8ミリの厚さに切り、アスパラガスははかまを取り、長さ4センチの斜め切り、パプリカは長さ4～5センチの乱

## ネット副業のトラブル急増




大学生らが業者と契約してインターネット上に店舗を開き、商品を販売する「ドロップシッピング（DS）」と呼ばれる商法など、ネットを利用した副業に関するトラブルの相談が増えているとして、国民生活センターが注意を呼び掛けた。

「簡単にもうかる」と勧められて高額な契約金を支払う

ケースが目
員制交流サ
知り合った
誘って会員
どんどん上
るマルチ商
急増してい
DSは、
が入れば契
を卸す一方
卸値と販売
益となる仕
に、個人が
に業者のサ
告を張り、
報酬が入る
に関する相
こうした
数十万円も
得られない
2005年

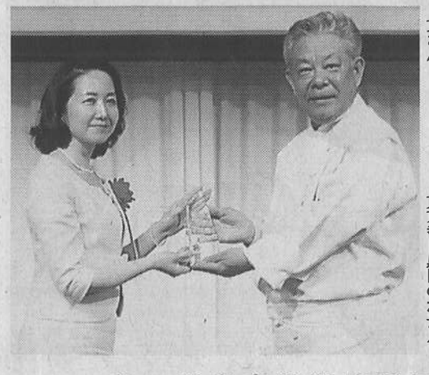
## 秘書に学ぶ〝手土産術〟

### ぐるなび 特選品発表

訪問先への土産は何がいいか、悩みどころだ。飲食店情報検索サイトの運営会社「ぐるなび」が、各種企業の秘書たちの審査による「接待の手土産セレクション」の特選を発表した。ビジネスの世界で磨かれた心遣いの技が、普段の暮らしでも参考になりそうだ。

「上司が顧客に持っていくのにふさわしい手土産」という観点から秘書が選んだ特選の食べ物は、各地の和菓子、洋菓子など30商品。本県のフルーツチョコレート「Fruit ショコラセット」、青森県のリンゴ果汁「Hot&Cool 浪岡アップルサイダーグランプレミアム」、新潟県の「雪室珈琲 ドリップギフトセット」、富山県の干菓子「月世界」、奈良県の干し柿「郷愁の柿」、広島県のせんべい「海鮮しぼり焼詰合わせ」など3千円台、4千円台が中心の逸品だ。

秘書たちの評価の基準


「接待の手土産セレクション」の特選に選ばれた吉野建さん（右）とプレゼンターを務めた五十嵐文さん　＝東京都目黒区のホテル